

PRA 進行性網膜萎縮症

PRA進行性網膜萎縮症とは

視細胞である桿体細胞や錐体細胞に変性
が起き、その後網膜全体に変性が起き失明
する疾患です。

進行性に見えにくくなり、最終的に失明する
遺伝性の網膜疾患です。

代表犬種

ゴールデン・レトリバー、チワワ、トイ・プードル、
パピヨン、ミニチュア・ダックスフンド 他

発症年齢

4歳以降

変異遺伝子保有率※

プードルの場合 22.5%

ダックスフントの場合 54.3%

※2016～2020年で検査した株式会社VEQTA のデータより。
変異保有率とはキャリアもしくはアフェクテッドと診断された
頭数を検査した全頭で割った時の割合です。



遺伝子検査結果の見方

PRA 進行性網膜萎縮症は 常染色体劣性（潜性）遺伝です。



ノーマル（クリア） AA

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

キャリア（ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。
ただし、他のキャリア、もしくはアフェクテッドの個体との繁殖は、対象となる疾患の発症リスクが高い子が生まれる可能性があるため、配慮が必要です。

アフェクテッド（変異ホモ接合） aa

変異型のみ検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、劣性遺伝の場合はキャリアと表記します。

